



2020年度 1学年 第43期

シラバス (授業計画書)

目 次

1. 歯科英語・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P1
2. 歯科技工造形学・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
3. 歯科技工学概論・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
4. 歯科理工学・・・・・・・・・・・・・・・・ P4.5
5. 歯の解剖学・・・・・・・・・・・・・・・・ P6.7
6. 有床義歯技工学・・・・・・・・・・・・・・・・ P8~10
7. 歯冠修復技工学・・・・・・・・・・・・・・・・ P11~13
8. 矯正歯科技工学・・・・・・・・・・・・・・・・ P14
9. 小児歯科技工学・・・・・・・・・・・・・・・・ P15

北海道歯科技術専門学校

概要

単位
1単位（必修）

開講
第1学年 15時間

担当教員
相馬 七海

授業計画

授業科目概要
・ 歯科用英語（基本語句）の基礎を習得する。

学習目標（一般目標）
・ 歯科用語を習得し、同時に英単語も理解・習得する。

学習目標（到達目標）
・ 各課題の歯科用語の意味と英単語の音読ができる。
・ 各課題の適切な英単語が書ける。

成績評価方法
① 定期試験 80%
② 小テスト 10%

成績評価基準
① 定期試験（講義で学習した内容が中心）80%
② 小テスト（各項目終了時に小テスト）10%
③ 受講態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%

学修成果
【評価方法】
優：100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績
良：79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績
可：69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績
不可：59点以下 到達目標を達成していない成績
評価対象外 0点 試験未受験

授業スケジュール
1-4h：歯の解剖学における主要単語
5-9h：歯冠修復技工学における主要単語
10-15h：有床義歯技工学における主要単語

予習
・ 事前に指定教科書、参考図書で予習すること。

復習
・ 講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。

指定教科書
・ 最新歯科技工士教本 歯科英語（医歯薬出版）
・ オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校）

| 概要 | 授業計画 |
|---|---|
| <p>単位 2単位 (必修)</p> <p>開講 第1学年 45時間 講義 15時間 演習 30時間</p> <p>担当教員 相馬 七海</p> | <p>授業科目概要 ・ 歯科材料を用いて学生個人の自由発想に基づく作品を製作する。</p> <p>学習目標 (一般目標) ・ 歯科材料の扱い方や様々な利用方法を体験することで自由な発想を醸成し美的センスを養う。</p> <p>学習目標 (到達目標) ・ 講義 ① デッサンとスケッチの違いを理解する。 ② 発想力を高めることができる。 ・ 演習 ① 自由発想を元にデッサンができる。 ② デッサンしたものを忠実に彫刻できる。</p> <p>① 提出された製作物の完成度を評価の対象とする。 90% (1) デッサン (2) 歯科材料による製作物 ② 受講態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 提出されたデッサン、製作物の完成度を評価の対象とする。 90% ② 受講態度 (無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点) 10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> <p>授業スケジュール 1-15h : 講義 16-27h : デッサン、彫刻 28-45h : デッサン、金属製作物</p> <p>予習 ・ 事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。</p> <p>復習 ・ 講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、参考図書で復習すること。</p> <p>指定教科書 ・ 最新歯科技工士教本 歯科技工造形学 (医歯薬出版) ・ オリジナル資料 (北海道歯科技術専門学校)</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|--|
| <p>単位 1単位（必修）</p> <p>開講 第1学年 15時間</p> <p>担当教員 相馬 七海</p> | <p>授業科目概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔と歯科医療および歯科技工の概要を説明し、歯科技工士の役割と医療従事者としての心構えを講義する。 <p>学習目標（一般目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歯科医療」における「歯科技工」の概要を解説し、歯科技工の重要性について説明するとともに、医療従事者としての心構えを学び、歯科技工の内容や科目分野の特殊性について教授し認識を深める。 <p>学習目標（到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科技工士の役割について説明できる。 ・口腔ケアと感染管理対策の意義について説明できる。 ・歯科技工業務に必要な運営管理、作業環境やその衛生について説明できる。 <p>成績評価方法</p> <p>① 定期試験による判定。</p> <p>成績評価基準</p> <p>① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p>学修成果</p> <p>【評価方法】</p> <p>優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績</p> <p>良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績</p> <p>可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績</p> <p>不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績</p> <p>評価対象外 0点 試験未受検</p> <p>授業スケジュール</p> <p>1-2h : 歯科医療と歯科技工</p> <p>3-6h : 歯科技工と歯科技工士の役割</p> <p>7-15h : 歯科技工の作業環境, 歯科技工における衛生管理</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定教科書、参考図書で予習すること。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、参考図書で復習すること。 <p>指定教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科技工士教本 歯科技工管理学（医歯薬出版） ・オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校） |

| 概要 | 授業計画 |
|--|---|
| <p>単位 4単位（必修）</p> <p>開講 第1学年 60時間</p> <p>担当教員 大野 弘機（30時間） 赤坂 司（9時間） 高田 亮（6時間） 岩崎 佳治（15時間）</p> | <p>授業科目概要 ・歯科技工に関連する基礎的な歯科材料の性質事項について説明・理解させる。</p> <p>学習目標（一般目標） ・歯科技工に関連する必要な材料の基礎知識を習得する。</p> <p>学習目標（到達目標） ・歯科材料の機械的・物理的・化学的・生物学的性質を説明できる。 ・歯科技工に必要な接着の原理と方法を説明できる。 ・印象材の基礎知識を説明できる。 ・石膏の基礎知識を説明できる。 ・ワックスの基礎知識を説明できる。 ・レジン印象材の基礎知識を説明できる。 ・陶材の基礎知識を説明できる。 ・金属の基礎知識を説明できる。 ・埋没材の基礎知識を説明できる。 ・合金の融解と鑄込方法を説明できる。 ・鑄造欠陥の種類、原因・対策を説明できる。 ・合金の加工方法を説明できる。 ・歯科用CAD/CAMの構成と特徴を説明できる。</p> <p>成績評価方法 ① 定期試験（各学期の中間試験及び学期末試験）による判定。</p> <p>成績評価基準 ① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p>学修成果 【評価方法】 優：100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良：79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可：69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可：59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> <p>授業スケジュール 1-15h：歯科材料の性質、印象材 16-21h：金属、埋没材 22-30h：セメント、研磨材 31-60h：石膏、レジン、陶材、接合、熱処理</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。</p> <p>復習 ・講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工教本 歯科理工学（医歯薬出版） ・オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|--|
| <p>単位 1単位（必修）</p> <p>開講 第1学年 45時間</p> <p>担当教員 岩崎 佳治</p> | <p>授業科目概要 ・歯科理工学の意義とその必要性について理解し、基礎的な材料に関する実験方法を理解させ、データ処理方法やレポートの書き方を理解させる。</p> <p>学習目標（一般目標） ・各実習項目の基礎知識を理解し、適正に器材を使用できることを目標とする。</p> <p>学習目標（到達目標） ・歯科理工学と歯科技工操作の関連性を理解させ、材料の特性を理解した作業ができる。 ・歯科材料に対する興味を惹起させ、生体材料に対する理解を深めることができる。 ・適正に機材を使用できる。</p> <p>成績評価方法 ① 実験終了後のレポート提出によって5段階に評価する。90% A 90点以上、B 80点以上、C 70点以上、D 60点以上、E 不合格 ② 受講態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 年間を通して評価された8種類のレポート評価点数の平均点を理工学実習点とする。90% ② 受講態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点） 10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> <p>授業スケジュール 1-3h : 材料の強度測定法 4-9h : 石膏 10-15h : 印象材 16-21h : レジン 22-27h : ワックス 28-33h : 精密鋳造 34-39h : 鋳付け 40-45h : 熱処理</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。</p> <p>復習 ・講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 歯科理工学（医歯薬出版） ・オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|---|
| <p>単位 3単位（必修）</p> <p>開講 第1学年 45時間</p> <p>担当教員 野谷 健一（12時間） 秦 浩信（2時間） 鎌田 実李（31時間）</p> | <p>授業科目概要 ・歯の形態、歯周組織、歯列弓、頭蓋骨、口腔周囲筋、顎関節、口腔に関する解剖学的知識を習得する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・歯の種類の特徴・解剖・口腔解剖について理解し、歯科技工に必要な事項を十分習得することを目標とする。</p> <p>学習目標（到達目標） ・歯の種類と個々の形態的特徴を理解できる。 ・口腔周囲の筋肉、骨、周囲組織、顎関節等の構造や働きを理解できる。</p> <p>成績評価方法 ① 定期試験（各学期の中間試験及び学期末試験）による判定。</p> <p>成績評価基準 ① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p>学修成果 【評価方法】 優：100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良：79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可：69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可：59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> <p>授業スケジュール 1-12h：骨学、筋学、脈管学、口腔 13-14h：発生学 15-45h：永久歯、乳歯、骨、歯と歯周組織、口腔周囲筋、顎関節、舌</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。</p> <p>復習 ・講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学（医歯薬出版） ・オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|---|
| <p>単位 2単位（必修）</p> <p>開講 第1学年 90時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 鎌田 実李</p> | <p>授業科目概要 ・歯牙解剖学をもとにし天然歯または等寸大の歯の模型などの形態を立体的に再現する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・歯の基本的構造と各歯種の形態的特徴について理解し基本となる解剖学的知識を修得する。</p> <p>学習目標（到達目標） ・永久歯すべての歯冠形態特徴と各部の名称を理解できる。 ・定められた彫刻ステップに従い基本形態に従った適切な石膏彫刻ができる。</p> <p>成績評価方法 ① 歯種毎に試験を実施する。90% ② 実習態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 各歯種の彫刻試験において60点以上を合格とする。90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 優：100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良：79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可：69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可：59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> <p>【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-26h：前歯彫刻 27-56h：小臼歯彫刻 57-90h：大臼歯彫刻</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|---|
| 単位 4単位（必修） | 授業科目概要 ・全部床義歯および部分床義歯の定義、有床義歯技工学の目的と意義について教授する。 |
| 開講 第1学年 60時間 | 学習目標（一般目標） ・全部床義歯および部分床義歯の定義を知り、有床義歯技工学の目的と意義について理解する。 |
| 担当教員 斉藤 正恭（45時間） 渋谷 聡（15時間） | 学習目標（到達目標） ・有床義歯に関連する口腔内の基礎知識が説明できる。 ・有床義歯治療の流れと技工工程の関連性を説明できる。 ・人工歯排列の方法と咬合様式が説明できる。 ・埋没、重合、研磨操作の方法が説明できる。 ・維持、連結子の簡単な特徴が説明できる。 ・アタッチメントの特徴が説明できる。 ・金属床の特徴が説明できる。 |
| | 成績評価方法 ① 定期試験（各学期の中間試験及び学期末試験）による判定。 |
| | 成績評価基準 ① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。 |
| | 学修成果 【評価方法】 優：100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良：79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可：69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可：59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検 |
| | 授業スケジュール 1-20h：全部床義歯 21-45h：部分床義歯 46-60h：咬合、維持装置、連結子、金属床 |
| | 予習 ・事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。 |
| | 復習 ・講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。 |
| | 指定教科書 ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） ・オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校） |

| 概要 | 授業計画 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|----------|--------------------------|---|---------|---------------------|---|---------|---|----|--------|----------------|-------|----|-------|
| <p>単位 3単位（必修）</p> <p>開講 第1学年 135時間</p> <p>担当教員 相馬 七海（5年）</p> | <p>授業科目概要 ・無歯顎の特徴を理解し、損なわれた形態、機能および審美を回復するために用いる全部床義歯の製作方法を理解する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・全部床義歯の知識、製作手順、技工技術を理解し、技能を修得する。</p> <p>学習目標（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個人トレーの製作 <ul style="list-style-type: none"> ・外形線が正確に記入できる。 ・リリース、スパーサーのワックス操作が正確にできる。 ・レジン圧接がきれいにできる。 ・レジンの研磨が正確にできる。 ② 咬合床の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・外形線が正確に記入できる。 ・レジン圧接がきれいにできる。 ・咬合堤を正確に製作できる。 ③ 咬合器装着 <ul style="list-style-type: none"> ・咬合平板を用いたスプリットキャスト法による咬合器装着ができる。 ④ 人工歯排列、歯肉形成 <ul style="list-style-type: none"> ・咬合理論に準じた排列ができる。 ・審美的、形態的に良好な歯肉形成ができる。 ⑤ 埋没、重合 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な埋没操作ができる。 ・適正な餅状期での填入ができる。 ⑥ 研磨 <ul style="list-style-type: none"> ・外形線通りの形態に形態修正ができる。 ・傷がなく良好な研磨面形態に仕上げることができる。 <p>成績評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物の評価 90% ② 実習態度 10% <p>① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90%</p> <p>② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果</p> <p>【評価方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">優</td> <td style="width: 10%;">：100～80点</td> <td style="width: 80%;">到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>：79～70点</td> <td>到達目標を十分に達成している優秀な成績</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>：69～60点</td> <td>到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>：59点以下</td> <td>到達目標を達成していない成績</td> </tr> <tr> <td>評価対象外</td> <td>0点</td> <td>試験未受検</td> </tr> </table> <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。 <p>授業スケジュール</p> <p>1-11 h：個人トレー製作 12-21 h：咬合床製作 22-78 h：上下FD①製作 79-115 h：上下FD②製作 116-135 h：蠟義歯製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。</p> <p>指定教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校） | 優 | ：100～80点 | 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 | 良 | ：79～70点 | 到達目標を十分に達成している優秀な成績 | 可 | ：69～60点 | 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 | 不可 | ：59点以下 | 到達目標を達成していない成績 | 評価対象外 | 0点 | 試験未受検 |
| 優 | ：100～80点 | 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 良 | ：79～70点 | 到達目標を十分に達成している優秀な成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 可 | ：69～60点 | 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 不可 | ：59点以下 | 到達目標を達成していない成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価対象外 | 0点 | 試験未受検 | | | | | | | | | | | | | | |

| 概要 | 授業計画 | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|----------|--------------------------|---|---------|---------------------|---|---------|---|----|--------|----------------|-------|----|-------|
| <p>単位 3単位（必修）</p> <p>開講 第1学年 135時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年）</p> | <p>授業科目概要 ・欠損した部位の口腔の形態と機能を回復・改善するための部分床義歯の基礎技工技術を学ぶ。</p> <p>学習目標（一般目標） ・部分床義歯の知識、製作手順、技工技術を理解し、技能を修得する。</p> <p>学習目標（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 個人トレーの製作 <ul style="list-style-type: none"> ・外形線が正確に記入できる。 ・リリース、スペーサーのワックス操作が正確にできる。 ・レジン圧接がきれいにできる。 ・レジンの研磨が正確にできる。 ② 咬合床の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・外形線が正確に記入できる。 ・レジン圧接がきれいにできる。 ・咬合堤を正確に製作できる。 ③ 咬合器装着 <ul style="list-style-type: none"> ・咬合平面板を用いたスプリットキャスト法による咬合器装着ができる。 ④ 人工歯排列、歯肉形成 <ul style="list-style-type: none"> ・咬合理論に準じた排列ができる。 ・審美的、形態的に良好な歯肉形成ができる。 ⑤ 維持装置の基本設計ができる。 ⑥ 基本維持装置を製作できる。 ⑦ 基本連結子を製作できる。 ⑧ 埋没、重合 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な埋没操作ができる。 ・適正な餅状期での填入ができる。 ⑨ 研磨 <ul style="list-style-type: none"> ・外形線通りの形態に形態修正ができる。 ・傷がなく良好な研磨面形態に仕上げることができる。 <p>成績評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物の評価 90% ② 実習態度 10% <p>成績評価基準</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10% <p>学修成果</p> <p>【評価方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">優</td> <td style="width: 10%;">：100～80点</td> <td style="width: 80%;">到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>：79～70点</td> <td>到達目標を十分に達成している優秀な成績</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>：69～60点</td> <td>到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>：59点以下</td> <td>到達目標を達成していない成績</td> </tr> <tr> <td>評価対象外</td> <td>0点</td> <td>試験未受検</td> </tr> </table> <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。 <p>授業スケジュール</p> <p>1-11h：個人トレー製作 12-21h：咬合床製作 22-80h：上下PD①製作 81-120h：上下PD②製作 121-135h：基本維持装置製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。</p> <p>指定教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校） | 優 | ：100～80点 | 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 | 良 | ：79～70点 | 到達目標を十分に達成している優秀な成績 | 可 | ：69～60点 | 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 | 不可 | ：59点以下 | 到達目標を達成していない成績 | 評価対象外 | 0点 | 試験未受検 |
| 優 | ：100～80点 | 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 良 | ：79～70点 | 到達目標を十分に達成している優秀な成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 可 | ：69～60点 | 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 不可 | ：59点以下 | 到達目標を達成していない成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価対象外 | 0点 | 試験未受検 | | | | | | | | | | | | | | |

| 概要 | 授業計画 |
|---|---|
| <p>単位 4単位（必修）</p> | <p>授業科目概要 ・歯冠修復物の分類、要件および顎口腔系に調和した製作方法について教授する。</p> |
| <p>開講 第1学年 60時間</p> | <p>学習目標（一般目標） ・歯冠修復物の分類、要件および顎口腔系に調和した製作方法について修得する。</p> |
| <p>担当教員 浮田 万由美（45時間） 鎌田 実李（15時間）</p> | <p>学習目標（到達目標） ・歯冠補綴物の種類、特徴、具備要件を説明できる。 ・製作に関する知識と注意点およびそれに伴う技術やCAD/CAMシステムについて説明できる。 ・歯冠修復治療の流れと技工工程の関連性を説明できる。</p> |
| | <p>成績評価方法 ① 定期試験（各学期の中間試験及び学期末試験）による判定。</p> |
| | <p>成績評価基準 ① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。</p> |
| | <p>学修成果 【評価方法】 優：100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良：79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可：69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可：59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> |
| | <p>授業スケジュール 1-15h：歯冠修復技工学の概要、生物学的・物理的・化学的・審美的要件 16-45h：テンポラリー、歯冠修復物の種類・特徴・製作法 46-60h：クラウン、ブリッジ</p> |
| | <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。</p> |
| | <p>復習 ・講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。</p> |
| | <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版） ・オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---------|--------------------------|---|--------|---------------------|---|--------|---|----|-------|----------------|-------|----|-------|
| <p>単位 3単位（必修）</p> <p>開講 第1学年 135時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 鎌田 実李</p> | <p>授業科目概要 ・インレー、アンレー、全部金属冠の製作方法・手順を習得する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・歯冠補綴物の種類と特徴、製作法や技工操作および使用材料の特徴について、学科と実習を関連付けながら作業を行い、基本的な知識や技術の確立を目的とする。</p> <p>学習目標（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 作業用模型の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・石膏操作が正確にできる。 ・鋸入れが正確にできる。 ・歯型トリミングが正確にできる。 ② 咬合器装着 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な咬合器装着ができる。 ③ ワックスアップ <ul style="list-style-type: none"> ・最終補綴物の形態を理論の基にワックスで再現できる。 ④ 埋没 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な埋没操作ができる。 ⑤ 鑄造 <ul style="list-style-type: none"> ・遠心鑄造機の操作ができる。 ・ブローパイプの還元炎を使用し適切な鑄造ができる。 ⑥ 研磨 <ul style="list-style-type: none"> ・ワックスアップ時の形態を損なわずに研磨ができる。 ・傷がなく良好な研磨面形態に仕上げることができる。 <p>成績評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物の評価 90% ② 実習態度 10% <p>成績評価基準</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10% <p>学修成果</p> <p>【評価方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">優</td> <td style="width: 10%;">100～80点</td> <td style="width: 80%;">到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>79～70点</td> <td>到達目標を十分に達成している優秀な成績</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>69～60点</td> <td>到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>59点以下</td> <td>到達目標を達成していない成績</td> </tr> <tr> <td>評価対象外</td> <td>0点</td> <td>試験未受検</td> </tr> </table> <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。 <p>授業スケジュール</p> <p>1-15 h：アンレー製作 16-60 h：上顎全部金属冠製作 61-85 h：下顎全部金属冠製作 86-100 h：インレー製作 101-135 h：複合ケース製作</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。 <p>指定教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校） | 優 | 100～80点 | 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 | 良 | 79～70点 | 到達目標を十分に達成している優秀な成績 | 可 | 69～60点 | 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 | 不可 | 59点以下 | 到達目標を達成していない成績 | 評価対象外 | 0点 | 試験未受検 |
| 優 | 100～80点 | 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 良 | 79～70点 | 到達目標を十分に達成している優秀な成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 可 | 69～60点 | 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 不可 | 59点以下 | 到達目標を達成していない成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価対象外 | 0点 | 試験未受検 | | | | | | | | | | | | | | |

| 概要 | 授業計画 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|--|----------|--------------------------|---|---------|---------------------|---|---------|--|----|--------|----------------|-------|----|-------|
| <p>単位 2単位（必修）</p> <p>開講 第1学年 90時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年）</p> | <p>授業科目概要 ・前歯部におけるテンポラリークラウン、個歯トレー、レジン前装冠による審美的修復物の一連の作業を修得する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・補綴物の製作を通して、製作方法や補綴物の用途、特徴、材料の性質等を理解する。</p> <p>学習目標（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 作業用模型の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・石膏操作が正確にできる。 ・鋸入れが正確にできる。 ・歯型トリミングが正確にできる。 ② 咬合器装着 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な咬合器装着ができる。 ③ ワックスアップ <ul style="list-style-type: none"> ・最終補綴物の形態を理論の基にワックスで再現できる。 ④ 埋没 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な埋没操作ができる。 ⑤ 鋳造 <ul style="list-style-type: none"> ・遠心鋳造機の操作ができる。 ・ブローパイプの還元炎を使用し適切な鋳造ができる。 ⑥ 研磨 <ul style="list-style-type: none"> ・ワックスアップ時の形態を損なわずに研磨ができる。 ・傷がなく良好な研磨面形態に仕上げることができる。 ⑦ 工程に従いレジンの基本築盛ができる。 ⑧ 目標とする歯の形態修正ができる。 ⑨ 審美性を考慮した補綴物が製作できる。 <p>成績評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物の評価 90% ② 実習態度 10% <p>成績評価基準</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10% <p>学修成果</p> <p>【評価方法】</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">優</td> <td style="width: 15%;">：100～80点</td> <td style="width: 70%;">到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>：79～70点</td> <td>到達目標を十分に達成している優秀な成績</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>：69～60点</td> <td>到達目標を一応達成している成績、不十分などところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>：59点以下</td> <td>到達目標を達成していない成績</td> </tr> <tr> <td>評価対象外</td> <td>0点</td> <td>試験未受検</td> </tr> </table> <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。 <p>授業スケジュール</p> <p>1-20h：テンポラリークラウン製作 21-30h：個歯トレー製作 31-90h：レジン前装冠製作</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。 <p>指定教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校） | 優 | ：100～80点 | 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 | 良 | ：79～70点 | 到達目標を十分に達成している優秀な成績 | 可 | ：69～60点 | 到達目標を一応達成している成績、不十分などところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 | 不可 | ：59点以下 | 到達目標を達成していない成績 | 評価対象外 | 0点 | 試験未受検 |
| 優 | ：100～80点 | 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 良 | ：79～70点 | 到達目標を十分に達成している優秀な成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 可 | ：69～60点 | 到達目標を一応達成している成績、不十分などところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 不可 | ：59点以下 | 到達目標を達成していない成績 | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価対象外 | 0点 | 試験未受検 | | | | | | | | | | | | | | |

| 概要 | 授業計画 |
|--------------------------------|---|
| <p>単位 1単位（必修）</p> | <p>授業科目概要 ・ 歯科矯正治療の概念と矯正治療および矯正技工の意義、目的、進め方を修得する。</p> |
| <p>開講 第1学年 15時間</p> | <p>学習目標（一般目標） ・ 矯正技工に必要な器具や器材の特性、操作を理解しながら矯正装置の目的、用途、製作方法を理解する。</p> |
| <p>担当教員 高田 亮</p> | <p>学習目標（到達目標） ・ 正常咬合、不正咬合を説明できる。 ・ 矯正器具を説明できる。 ・ 各種矯正装置の簡単な特徴を説明できる。 ・ 各種保定装置の簡単な特徴を説明できる。</p> |
| | <p>成績評価方法 ① 定期試験（各学期の中間試験及び学期末試験）による判定。</p> |
| | <p>成績評価基準 ① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。</p> |
| | <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> |
| | <p>授業スケジュール 1-3h : 意義と目的、正常咬合と不正咬合 4-6h : 矯正材料 7-12h : 矯正装置 13-15h : 保定装置</p> |
| | <p>予習 ・ 事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。</p> |
| | <p>復習 ・ 講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。</p> |
| | <p>指定教科書 ・ 最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（医歯薬出版） ・ オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|------------------------|---|
| 単位 1単位（必修） | 授業科目概要 ・小児歯科技工に必要な知識と各種装置の目的、用途、製作方法について教授する。 |
| 開講 第1学年 15時間 | 学習目標（一般目標） ・小児期の特徴、小児歯科技工に必要な知識と各種装置の目的、用途、製作方法について修得する。 |
| 担当教員 三浦 真理 | 学習目標（到達目標） ・小児の成長過程の基礎知識を説明できる。 ・乳歯の特徴について説明できる。 ・乳歯の歯冠修復について説明できる。 ・各種咬合誘導装置の簡単な特徴を説明できる。 |
| | 成績評価方法 ① 定期試験（各学期の中間試験及び学期末試験）による判定。 |
| | 成績評価基準 ① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。 |
| | 学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分などところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検 |
| | 授業スケジュール 1-3h : 乳歯の特徴、歯の萌出 4-6h : 生理的空隙、歯冠修復 7-12h : 保隙装置 13-15h : スペースリゲナー、維持装置 |
| | 予習 ・事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。 |
| | 復習 ・講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。 |
| | 指定教科書 ・最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（医歯薬出版） ・オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校） |



2020年度 2学年 第42期

シラバス (授業計画書)

目 次

1. 歯科技工造形学 P1
2. 関係法規 P2
3. 歯科技工学概論 P3
4. 歯科理工学 P4
5. 顎口腔機能学 P5.6
6. 有床義歯技工学実習 P7.8
7. 歯冠修復技工学実習 P9.10
8. 歯科技工実習 P11~15
9. 矯正歯科技工学実習 P16
10. 小児歯科技工学実習 P17

北海道歯科技術専門学校

概要

単位
2単位 (必修)

開講
第2学年 45時間
講義 15時間
演習 30時間

担当教員
渋谷 聡
鎌田 実李

授業計画

授業科目概要
・ 歯科材料を用いて学生個人が考案した作品を各自が立案した計画に沿って製作する。

学習目標 (一般目標)
・ 1年次に習得した歯科材料の扱い方や利用方法を応用し、歯科材料を利用した作品制作を行い、作品のイメージ図のデッサンと実際の作品製作から平面、立体の認識力を高める。

学習目標 (到達目標)
・ 講義 ① 個人の発想力を高める。
② 作品制作の計画を立てる。
・ 演習 ① 計画に沿って目標とする製作物のイメージ図のデッサンを行う。
② 各自のイメージ図に沿った作品制作を行う。

成績評価方法
① 提出された製作物の完成度を評価の対象とする。 90%
(1) デッサン (2) 歯科材料による製作物
② 受講態度 10%

成績評価基準
① 提出されたデッサン、製作物の完成度を評価の対象とする。 90%
② 受講態度 (無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点) 10%

学修成果
【評価方法】
優 : 100~80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績
良 : 79~70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績
可 : 69~60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績
不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績
評価対象外 0点 試験未受検

授業スケジュール
1-15 h : 講義、計画立案
16-25 h : デッサン
26-45 h : 作品制作

予習
・ 事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。

復習
・ 講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、参考図書で復習すること。

指定教科書
・ 最新歯科技工士教本 歯科技工造形学 (医歯薬出版)
・ オリジナル資料 (北海道歯科技術専門学校)

| 概要 | 授業計画 |
|------------------------|--|
| 単位 1単位（必修） | 授業科目概要 ・ 衛生行政と法の概要および医療関係法規、歯科技工士法を習得する。 |
| 開講 第2学年 15時間 | 学習目標（一般目標） ・ 衛生行政の概要と歯科技工士法を理解し、歯科技工士免許の位置づけを学ぶとともに国家資格を有する医療技術者として遵法精神を養う。 |
| 担当教員 今村 幸四郎 | 学習目標（到達目標） ・ 衛生行政の概要を把握し法律と厚生労働省を中心とした国の仕組みを説明できる。 ・ 歯科技工士法の詳細を習得し適切に運用できる。 |
| | 成績評価方法 ① 定期試験（各学期の中間試験及び学期末試験）による判定。 |
| | 成績評価基準 ① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。 |
| | 学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検 |
| | 授業スケジュール 1-3 h : 衛生行政 4-13 h : 歯科技工士法 14-15 h : その他医療関係法規 |
| | 予習 ・ 事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。 |
| | 復習 ・ 講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。 |
| | 指定教科書 ・ 最新歯科技工士教本 歯科技工管理学（医歯薬出版） ・ オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校） |

| 概要 | 授業計画 |
|---|---|
| <p>時間数 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 15時間</p> <p>担当教員 相馬 七海</p> | <p>授業科目概要 ・歯科技工の作業環境や衛生管理を説明し、咀嚼の重要性および歯科技工に関わる環境との関連を習得する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・歯科技工の作業環境や歯科技工業務の運営、品質管理および歯科医療現場での労働環境や衛生管理について理解し、深く考察することを目標とする。</p> <p>学習目標（到達目標） ・歯科技工の作業環境や技工所の設置基準について説明できる。 ・歯科技工業務の運営や歯科技工における衛生管理について説明できる。 ・咀嚼と健康および口腔の衛生管理について説明できる。 ・健康政策について説明できる。</p> <p>成績評価方法 ① 定期試験による判定。</p> <p>成績評価基準 ① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p>学修成果 【評価方法】 ・評価項目1～4の達成度により評価する 優：100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良：79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可：69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可：59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> <p>授業スケジュール 1-5h：歯科技工関連 6-12h：歯科の健康 13-15h：歯科技工所関連</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、参考図書で予習すること。</p> <p>復習 ・講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、参考図書で復習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 歯科技工管理学（医歯薬出版） ・オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|--|
| <p>単位 2単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 30時間</p> <p>担当教員 岩崎 佳治（30時間）</p> | <p>授業科目概要 ・1年次の復習および歯科技工と歯科理工学の関連性と必要性について理解させる。</p> <p>学習目標（一般目標） ・国家試験合格レベル以上の字力を確保する。</p> <p>学習目標（到達目標） ・歯科技工の業務と歯科材料の性質・特徴を関連付け、説明できる。</p> <p>成績評価方法 ① 定期試験（各学期の中間試験及び学期末試験）による判定。</p> <p>成績評価基準 ① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p>学修成果 【評価方法】 優：100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良：79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可：69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分などところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可：59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> <p>授業スケジュール 1-6h：材料の性質 7-10h：模型製作法 11-15h：原型製作法 16-20h：レジン形成法 21-25h：セラミック形成法 26-28h：金属 29-30h：鑄造欠陥</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。</p> <p>復習 ・講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工教本 歯科理工学（医歯薬出版） ・オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|---|
| <p>単位 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 15時間</p> <p>担当教員 川西 克弥</p> | <p>授業科目概要 ・顎口腔系の形態と機能を解説し下顎運動や歯の接触様式を再現する咬合器上で製作する歯科補綴物に応用できるように理解する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・顎口腔系の機能と形態、下顎運動と咬合器との関連を理解する。</p> <p>学習目標（到達目標） ・下顎運動と咬合器との関連を説明できる。 ・各種咬合器の説明と基本操作ができる。</p> <p>成績評価方法 ① 定期試験（各学期の中間試験及び学期末試験）による判定。</p> <p>成績評価基準 ① 定期試験において100点満点中60点以上を合格とする。</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> <p>授業スケジュール 1-10h : 下顎位・下顎運動 11-15h : 咬合器・修復物の咬合 16-18h : 顎口腔系の形態</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル資料で予習すること。</p> <p>復習 ・講義で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル資料で復習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 顎口腔機能学（医歯薬出版） ・オリジナル資料（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|---|---|
| <p>時間数 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 30時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 今村 幸四郎（2年） 相馬 七海（5年） 渋谷 聡（2年）</p> | <p>授業科目概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・咬合の理解と基準点や基準平面と咬合器との関係および半調節性咬合器の適切な使い方を習得する。 <p>学習目標（一般目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顎口腔系を構成する諸要素の機能や特徴を理解し、生体に調和した修復物を適切に回復、維持するための基礎となる下顎位や下顎運動、歯の接触様式および咬合器について習得する。 <p>学習目標（到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顎口腔系の形態や機能、基準平面、下顎位、下顎運動、歯の接触様式、咬合様式、および咬合について説明できる。 ・半調節性咬合器を用いた作業ステップと操作方法が説明できる。 <p>成績評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物の評価 90% ② 実習態度 10% <p>成績評価基準</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90% ③ 受講態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10% <p>学修成果</p> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価項目1～4の達成度により評価する <ul style="list-style-type: none"> 優：100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良：79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可：69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可：59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検 <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。 <p>授業スケジュール</p> <p>1-3h：講義 4-7h：作業模型製作 8h-21：フェイスボウにより咬合器装着 22-27h：チェックバイト採得 28-30h：顎路調整</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。 <p>指定教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科技工士教本 顎口腔機能学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校） |

| 概要 | 授業計画 |
|--|---|
| <p>単位 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 45時間</p> <p>担当教員 相馬 七海（5年） 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年）</p> | <p>授業科目概要 ・臨床応用に即した基礎技術内容の習得。</p> <p>学習目標（一般目標） 各種維持装置について基礎技術の確立を目的とする。 ・臨床応用を目的として指示書による設計をもとに製作できることを目標とする。</p> <p>学習目標（到達目標） ・臨床的な人工歯排列、歯肉形成ができる。 ・臨床を想定した維持装置と大連結子が製作できる。 ・歯科技工指示書を理解し製作できる。</p> <p>① 各実習物の評価 90% ② 実習態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優：100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良：79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可：69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可：59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検</p> <p>【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-20h：人工歯排列、歯肉形成 21-45h：維持装置、大連結子製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|--|
| <p>単位 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 45時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 相馬 七海（5年）</p> | <p>授業科目概要 ・1年次の部分床義歯の応用技術として金属床の知識、製作方法を習得する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・修得した部分床義歯製作に関する知識と技術を生かしながら、新たな体験製作として金属床義歯の製作を行う。</p> <p>学習目標（到達目標） ・金属床の特徴が説明できる。 ・金属床の各部位の名称・特徴が説明できる。 ・部分床義歯とは違う方法のワックスアップが製作できる。 ・ステップに沿った金属床の鏡面研磨ができる。</p> <p>成績評価方法 ① 実習課題の評価 90% ② 実習態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-45h：設計からワックスアップ、メタルフレーム製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|---|
| <p>単位 2単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 90時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 鎌田 実李</p> | <p>授業科目概要 ・臨床応用に即した基礎技術内容の習得。</p> <p>学習目標（一般目標） ・前歯、臼歯に用いられる歯冠修復物の種類の中から一般臨床に多く用いられる修復物について、臨床応用を目的として基礎技術の確立を目的とする。</p> <p>学習目標（到達目標） ・臨床用模型での全部金属冠、ブリッジの蝋型が製作できる。 ・指示書による設計を短時間で能率的に製作できる。</p> <p>成績評価方法 ① 各実習物の評価 90% ② 実習態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 試験未受検 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-30h : 上下全部金属冠の蝋型製作 31-60h : 上顎ブリッジの蝋型製作 61-90h : 下顎ブリッジの蝋型製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、オリジナル実習帳で予習すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、オリジナル実習帳で復習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p> |

概要

単位
2単位（必修）

開講
第2学年 90時間

担当教員
実務経験のある教員
渋谷 聡（2年）
今村 幸四郎（2年）
鎌田 実李

授業計画

授業科目概要
・ 審美性に優れている前装冠、ジャケットクラウン、陶材焼付金属冠の製作実習を行い 審美をより追求し製作方法を習得する。

学習目標（一般目標）
・ 陶材の性質、取り扱いについて理解した上で、陶材焼付鑄造冠の製作を行う。

学習目標（到達目標）
・ 陶材の性質や陶材焼付鑄造冠の製作手順、製作上の注意点を十分に理解し製作できる。

成績評価方法
① 実習課題の評価 90%
② 実習態度 10%

成績評価基準
① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90%
② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%

学修成果
【評価方法】
優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績
良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績
可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績
不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績
評価対象外 0点 未提出
【注意事項】
・ 未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点）
・ 未提出は評価対象外（0点）とする。
・ 必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。

授業スケジュール
1-25h : レジン前装冠（作業用模型から最終仕上げ）
26-50h : ジャケットクラウン（作業用模型から最終仕上げ）
51-90h : 陶材焼付金属冠（作業用模型から最終仕上げ）

予習
・ 事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。
・ 常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。

復習
・ 実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。
・ 取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。

指定教科書
・ 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版）
・ オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）

| 概要 | 授業計画 |
|--|--|
| <p>時間数 3単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 135時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 今村 幸四郎（2年） 相馬 七海（5年） 渋谷 聡（2年）</p> | <p>授業科目概要 ・1年次の基礎を基に全部床義歯の製作技術の確立と臨床的模型への応用を目的とする。</p> <p>学習目標（一般目標） ・1年次に修得した知識と技術を基に、臨床的無歯顎模型を使用して手技の速さと正確さおよび応用力を身につけるとともに、各課題を自己の知識と技術により完成させる。</p> <p>学習目標（到達目標） ・基本技術において各課題の指示を理解し適切に製作することができる。 ・臨床的模型への応用は、模型製作から義歯の研磨完成までの技法の確立を実習で実施しながら各課題を自己の知識と技能で完成できる。</p> <p>成績評価方法 ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分などところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-10 h : 上下FD①製作 11-15 h : 個人トレー製作 16-24 h : 咬合床製作 25-56 h : 上下FD②製作 57-96 h : 上下FD③製作 97-129 h : 上下FD④製作 130-135 h : 実習講義</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|--|
| <p>単位 2単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 90時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 相馬 七海（5年）</p> | <p>授業科目概要 ・歯が欠損した口腔の形態と機能を回復・改善するための部分床義歯の応用加工技術を学ぶ。</p> <p>学習目標（一般目標） ・部分床義歯の知識、製作手順、技工技術を理解し、技能を習得する。 ・歯科技工に必要な材料、器具、製作方法を理解し、技能を習得する。 ・金属床義歯の基本となる知識、製作手順、技工技術を理解し、技能を習得する。 ・患者の口腔内へ装着するに相応しい義歯の形態を適切に判断し、表現することができる。</p> <p>学習目標（到達目標） ・各課題を自己の知識と技能で完成できる。 ・各課題の指示を理解し、製作することができる。 ・製作課題を期限内に完成できる。 ・実習内容について、自主的に学習できる。 ・機材の特性や取り扱い方法を理解し、応用できる。</p> <p>成績評価方法 ① 実習課題の評価 90% ② 実習態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分などところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-30h : PD①製作 31-60h : PD②製作 61-90h : PD③製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|---|
| <p>単位 2単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 90時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 鎌田 実李</p> | <p>授業科目概要 ・白歯部に製作するブリッジの応用技術を学ぶ。</p> <p>学習目標（一般目標） ・白歯に製作するブリッジに関する知識や技工操作法を理解し、臨床に必要である精度や作業スピードについて実習を通してレベルアップを図り、効率よく丁寧に、かつ機能的な補綴物の製作ができることを目的とする。</p> <p>学習目標（到達目標） ① 作業用模型の製作 ・石膏操作が正確にできる。 ・鋸入れが正確にできる。 ・歯型トリミングが正確にできる。 ② 咬合器装着 ・正確な咬合器装着ができる。 ③ ワックスアップ ・最終補綴物の形態を理論の基にワックスで再現できる。 ④ 埋没 ・正確な埋没操作ができる。 ⑤ 鋳造 ・遠心鋳造機の操作ができる。 ・ブローパイプの還元炎を使用し適切な鋳造ができる。 ⑥ 研磨 ・ワックスアップ時の形態を損なわずに研磨ができる。 ・傷がなく良好な研磨面形態に仕上げることができる。 ⑦ 白歯におけるレジン前装ができる。 ⑧ ワンピースキャスト法と鑲付け法の手順が説明できる。</p> <p>成績評価方法 ① 実習課題の評価 90% ② 実習態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点） 10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-45h：上顎大白歯部ブリッジ製作実習（ワンピースキャスト法） 46-90h：下顎大白歯部ブリッジ製作実習（鑲付け法）</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|--|---|
| <p>単位 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 45時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 鎌田 実李</p> | <p>授業科目概要 ・前臼歯部におけるメタルコア、インレーおよび全部金属冠の応用技術を学ぶ。</p> <p>学習目標（一般目標） ・前臼歯に製作するメタルコア、インレーおよび全部被覆冠に関する知識や技工操作法を理解し、臨床に必要な精度や作業スピードについて実習を通してレベルアップを図り、効率よく丁寧に、かつ機能的な補綴物の製作ができることを目的とする。</p> <p>学習目標（到達目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 作業用模型の製作 <ul style="list-style-type: none"> ・石膏操作が正確にできる。 ・鋸入れが正確にできる。 ・歯型トリミングが正確にできる。 ② 咬合器装着 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な咬合器装着ができる。 ③ ワックスアップ <ul style="list-style-type: none"> ・最終補綴物の形態を理論の基にワックスで再現できる。 ④ 埋没 <ul style="list-style-type: none"> ・正確な埋没操作ができる。 ⑤ 鋳造 <ul style="list-style-type: none"> ・遠心鋳造機の操作ができる。 ・ブローパイプの還元炎を使用し適切な鋳造ができる。 ⑥ 研磨 <ul style="list-style-type: none"> ・ワックスアップ時の形態を損なわずに研磨ができる。 ・傷がなく良好な研磨面形態に仕上げることができる。 ⑦ 臼歯におけるレジン前装ができる。 ⑧ ワンピースキャスト法と鑲付け法の手順が説明できる。 <p>成績評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 実習課題の評価 90% ② 実習態度 10% <p>成績評価基準</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10% <p>学修成果</p> <p>【評価方法】</p> <p>優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出</p> <p>【注意事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。 <p>授業スケジュール</p> <p>1-20 h : メタルコア、インレー製作 21-45 h : 全部金属冠製作</p> <p>予習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。 <p>復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。 <p>指定教科書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校） |

| 概要 | 授業計画 |
|---|---|
| <p>単位 3単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 135時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 渋谷 聡（2年） 今村 幸四郎（2年） 鎌田 実李</p> | <p>授業科目概要 ・歯牙解剖学をもとにし天然歯または等寸大の歯の模型などの形態を立体的に再現する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・1年次に習得した彫刻技法と歯の形態についての知識を用いて、限られた時間内で正確かつ丁寧な形態再現を行う。</p> <p>学習目標（到達目標） ・デッサンは、1歯15分以内に解剖学的形態を描くことができる。 ・彫刻は、1歯30分以内に歯の解剖学的形態を再現することができる。</p> <p>成績評価方法 ① 実習課題の評価 90% ② 実習態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-16 h、41-49 h : 前歯彫刻 17-28 h、50-61 h : 小臼歯彫刻 29-40 h、62-75 h : 大臼歯彫刻 76-135 h : 課題彫刻</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 口腔・顎顔面解剖学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|---|---|
| <p>時間数 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 30時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 相馬 七海（5年） 今村 幸四郎（2年） 渋谷 聡（2年）</p> | <p>授業科目概要 ・舌側弧線装置・ホーレーの保定装置を製作し基本技術を習得する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・舌側弧線装置、ホーレーの保定装置を製作し、製作手順や製作上の注意点を理解し製作する。</p> <p>学習目標（到達目標） ・動的矯正装置、保定装置の目的、用途、製作方法について説明できる。 ・舌側弧線装置、ホーレーの保定装置の製作方法を修得し製作できる。</p> <p>成績評価方法 ① 実習課題の評価 90% ② 実習態度 10%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分なところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-15h : 舌側弧線装置製作 16-30h : ホーレーの保定装置製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p> |

| 概要 | 授業計画 |
|---|--|
| <p>時間数 1単位（必修）</p> <p>開講 第2学年 30時間</p> <p>担当教員 実務経験のある教員 相馬 七海（5年） 今村 幸四郎（2年） 渋谷 聡（2年）</p> | <p>授業科目概要 ・クラウンループ保険装置、スペースリゲーナーを製作し基本技術を習得する。</p> <p>学習目標（一般目標） ・クラウンループ保険装置、スペースリゲーナーの製作を行い、製作手順、製作上の注意点をよく理解し製作する。</p> <p>学習目標（到達目標） ・各種保険装置、スペースリゲーナーの目的、用途、製作方法について説明できる。 ・クラウンループ保険装置、スペースリゲーナーの製作方法を修得し製作できる。</p> <p>成績評価方法 ① 実習課題の評価 90%</p> <p>成績評価基準 ① 各実習物において100点満点で評価を行い、60点以上を合格とする。 90% ② 実習態度（無断欠席、私語が多い、学習への取り組みが悪い場合には減点）10%</p> <p>学修成果 【評価方法】 優 : 100～80点 到達目標をほぼ完全に達成している極めて優秀な成績 良 : 79～70点 到達目標を十分に達成している優秀な成績 可 : 69～60点 到達目標を一応達成している成績、不十分などところもあるが、到達目標の最低限度レベルを達成している成績 不可 : 59点以下 到達目標を達成していない成績 評価対象外 0点 未提出 【注意事項】 ・未提出で提出遅延の場合、実習時間外や補習時間で完成、提出すること。（最高60点） ・未提出は評価対象外（0点）とする。 ・必ず各ステップで教員の検印をもらうこと。検印無き項目は減点の対象とする。</p> <p>授業スケジュール 1-13h : クラウンループ保険装置製作 14-30h : スペースリゲーナー製作</p> <p>予習 ・事前に指定教科書、実習書、参考図書で予習すること。 ・常に指定教科書と実習書を手元に置き、必要に応じて確認すること。</p> <p>復習 ・実習で十分に理解できなかった事は、指定教科書、実習書、参考図書で復習すること。 ・取り組んだ実習内容は、実習書だけでなく、指定教科書も併せて学習すること。</p> <p>指定教科書 ・最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（医歯薬出版） ・オリジナル実習帳（北海道歯科技術専門学校）</p> |